

第3号様式

平成23年度 京都市立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A19	取組 名称	京都府北部の生物多様性の解明と保全、ならびに地域学術情報の集積と探求拠点の構築に関する研究
研究代表者：		生命環境学部 (研究科)	職・氏名： 准教授・中尾史郎
研究担当者： 京都府立大学 (中尾史郎、大迫敬義、平山貴美子、糟谷信彦、平井正志、吉安 裕 (敬称略)) 外部分担者・協力者 (狩野清貴氏、黒田悠三氏、佐藤芳郎氏 ほか)			
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名) 京都府文化環境部自然環境保全課、青葉山レインジャー隊、冠島調査研究会			
<b>【研究活動の要約】</b>			
(可能な限り府民目線で、分かりやすく簡潔に御記入ください。) 京都府北部の動植物相とその現状を把握し、その自然資源を地域資源として活用することで文化的および学術的な北部の発展に資する目的で、野外における貴重生物分布と生態調査、海浜植物の遺伝構造解析、文化財 (天然記念物) の現状調査を遂行し、その成果を印刷物としてとりまとめて配布するとともに、地元会館で成果発表会とシンポジウムを開催した。成果は地域の文化・環境学習および京都府レッドデータリストに反映される。			
<b>【研究活動の成果】</b>			
ネズミ類の影響で巣立ち率の低下が懸念されていた冠島のオオミズナギドリについて、その巣立ち率が著しく低下していない事を確認した。冠島の樹林および海浜植生群落の昆虫は30年前と大きく変わらないが、水生昆虫類の多様性が著しく低下していることを把握した。砂浜で栄養繁殖および種子繁殖するコウボウムギについて、特に京丹後市や宮津市の海岸において、その遺伝的多様性と空間構造を複数海浜の群落間で比較し、海浜環境の攪乱性と遺伝的多様性や集団持続性との間に相互関係を見いだした。天橋立のハマナスにおいてはハナバチ類、マルハナバチ類とカタモンコガネが主たる訪花昆虫であるが、送粉にはマルハナバチ類が特に重要である事を明らかにした。得られた成果を12月17日に舞鶴勤労福祉会館で市民に公開で報告し、要旨集を印刷配布して周知した。これらの学術成果を集積するとともに、さらなる活用に資する自然系博物館機能を京都市立大学などが北部京都に設置することの意義や活用の要望について議論する場を公開シンポジウムとして提供した。			
<b>【研究成果の還元】</b>			
(開催した発表会・成果報告会等の開催日、場所、参加者 等を御記入ください) H23/12/17 京都府舞鶴勤労福祉会館 約100名、「平成23年度地域貢献型特別研究成果報告会兼公開シンポジウム：京都府北部における地域学術情報の集積と探求拠点～自然系博物館への期待」 (報告書、論文等のタイトル、希望者への配付/閲覧の有無 等を御記入ください) 「京都府北部海岸域の野生動植物に関する研究報告要旨集2号」(府大応用昆虫学研究室で閲覧可) Genetic diversity of the endangered coastal violet <i>Viola grayi</i> Franchet et Savatier (Violaceae) and its genetic relationship to the species in subsection <i>Rostratae</i> , <i>Conserv. Genet.</i> DOI 10.1007/s10592-012-0333-2 (Springer : Web で閲覧可)			
<b>【お問い合わせ先】</b>		生命環境学部 (研究科) 応用昆虫学研究室	准教授・中尾史郎
Tel: 075-703-5617		E-mail: nakao@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）



写真1. 冠島における動植物調査活動



写真2. 舞鶴市における成果発表とシンポジウムの状況